



新井 拓児 教授

専門:確率論・数理ファイナンス

(インタビュアー:郭・石田)

『ファイナンスから出てきた数学』

Q. 新井先生の専門とされている研究内容はなんですか？

私は数理ファイナンスを研究しております。数学を用いてファイナンスを研究するというよりかは、ファイナンスから出てきた数学の研究をしています。私自身理系の出身で数学の方で学位をとってきたというのもあって、もともと確率論などを勉強してたから、ファイナンスの方に興味があるというよりかは、ファイナンスから出てきた数学、特に確率論とか関数解析など数学を勉強しています。最近は実践的な部分も少し考えて、例えばコンピューターを用いた数値計算などに関する研究も行っています。

『数学の「研究」』

Q. 新井先生の教育理念を教えてください

教育理念ですか、私は教育はしてないんですよ(笑) 私は数学しかやっていなくて、教育をするっていうよりかは、普段数学の研究をしていて、そこで得た知識とか経験っていうのを伝えていく。理念とかではなくそれしかできないんです(笑) ただ、気を付けていることとして、例えば自分が若かった頃にした失敗とか経験、学生さんがどういう失敗をしてしまうのかっていうのを考

えながら教えるようにしています。

『勉強はあまりしていなかった！？』

Q. 新井先生の学生時代のお話を聞かせてください

学部と大学院では全然違うタイプの学生でした。学部時代は、本当に普通の学生だったと思います。サークルとかもやっていたし、全然勉強もしていませんでした。夏にお金を貯めて、冬になるとスキーに行ったりとかしていて、研究者になろうとは全然思っていませんでした。理系だったので、大学院に行くのは当たり前だと思っていて、学生を延長するくらいの気分で修士課程に行って、実は修士を卒業した後に会社に就職したんです。修士2年生の6月くらいに会社に内定をもらっていて、それから修士論文を本格的にやるようになって、そこから研究もどきみたいなのをやって、研究って面白いなって思ったんですけど、会社に行くことに決まっていたので一応就職したんですが、僕は働くことが嫌いだったんでしょね(笑)

すぐに嫌になってやめて、大学院の博士課程に行って研究者を目指そうと思って、博士課程になってからは、修士までは東京理科大学ってところに行っていたんだけど、博士課程になって慶應の理工に来て、博士課程の時は研究者になるっていう明確な目標のもとやっていました。

だから学生に勉強しろとはとても言えないです(笑)

Q 学生時代、勉強していた方がいいと思いますか？それとも遊んでいた方がいいと思いますか？

半々ですね、多分その人のその後の人生によると思います。例えば、僕みたいに研究者になるんだったら学部時代にもっと勉強していたほうがよかったと思いますけど、もし僕が一回会社に入ってそのまま続けていたとしたら、多分大学の勉強とは無関係だったと思います。そういうことを考えると、学部時

代の4年間っていうのは、お金はあんまりないかもしれないけど、体力もあって気力もあって、若いときに自由に色々なことができる貴重な時間だと思います。社会人になって歳を重ねると、色々な場所に行き来するっていうことができなくなるし、そういう意味では、遊ぶのもありだと思う。

学生に何をやったほうがいいのかというお勧めはないですね。

というのも、皆さん自分で何をやるべきか判断できると思いますし、必要なことっていうのは人それぞれだと思います。

『数学が好きな人のほうがいい!』

Q 新井ゼミを志望する2年生に求めるものは何ですか？

求めるものっていうのは具体的にはないのですが、僕のゼミでは数学が好きでないと、多分ついて来れないと思います。

経済学部にはたくさんゼミがあるので、色々なゼミがあってもいいだろうということでもかなり変わった分野を扱っています。数学に偏ったゼミをしているので、厳密な議論をすることがあり、私もずっと数学の研究をしているので、細かいところにしつこく議論することがあります。

もちろん、とことん突きつめていては終わらないのでどこかで妥協しなければならない時もありますが、やはりゼミ内では議論をすすめていくので、数学の好きな人のほうがいいと思います。

☆2年生へのメッセージをお願いします☆

先ほども少し言ったんですけど、ないんですよ(笑)

ないって言うのも、皆さん自分で物事を判断できる学生さんだと思うので。

『野球観戦、音楽鑑賞が趣味！』

Q. 少し話は変わりますが、趣味などがありますか？

自分は数学だけやっていたらいいので、世の中のことはそれに関わっている人がやればいいと思い、色々なことに興味を持たないようにしていました。最近少し余裕がでてきたか分からないですが、強いて言えば、野球観戦ですかね(笑)

僕は35年くらい巨人ファンなんで、年に何度も行っているわけではないんですが、年に5回くらいとか東京ドームに行って応援したりしています。それから仕事上、海外出張に行くことが年に2,3回くらいありまして、僕の場合はヨーロッパに行くことが多いんですけど、そういう時にクラシックの音楽鑑賞、オーケストラとかを観に行ったりとかはしています。それから普段はYoutubeなどで音楽鑑賞とかしたりしています。

中学の時にブラスバンドをやっていて、コントラバスをやっていたんですが、その影響で音楽鑑賞をよくしていました。

高校に上がるときにやめてしまったので音楽とは疎遠になってしまったんですが。大学ではテニスサークルに入っていて、その時にできた友達とは卒業してからも仲が良いです。

『友達を作るなら今のうち！』

Q. 大学時代の友人はやはり大切ですか？

友達っていうのは年を重ねてからはなかなかできないと思います。若い時だと友達にはなれるけど、歳を経ると色々なことを考えてしまってなかなか友達っていうのにはなれないです。だから皆さんも友達をつくるのは今のうちです(笑)

[編集後記]

新井先生は終始穏やかな口調で、記事からもわかるように、我々のかなりくだけた質問にも答えてくださり、インタビューの節々で先生の温厚な人柄が垣間見えた。

記事のインタビューの最後に先生がおっしゃった、「友達をつくるのは今のうち」という言葉は我々インタビュアー一同、考えさせられるものがあった。

数学に興味がある方はぜひ新井ゼミを目指されてはいかがだろうか。

最後になりましたが、新井先生、お忙しい中教授インタビューにご協力いただきありがとうございました。

経済学部ゼミナール委員会

監査 石田 直之